

創刊号

全日本会報

発行 全日本学生写真連盟
発行責任者 木内正隆
(0424) 91-5812
清瀬市中里1-736-10

さみしくはないか！



写真サークルと一口に言っても、まづけれども、その中にいる人間は顔かたちが異なっているように、個々の持つ質は少くも異なっている。だからかまえて写真を見るとき、始めは何か全う受けつけない感じのものが、じつと見ていると、徐々に写真が何かを語ってくるようになってくる。話し込んでみると、こいつはこんなことを考えていたのか、もっと早く話をすればよかったと考へたりもする。人と人がそうして徐々に重なり、いくと「もつとサークルでこういことをしよう！」「こういことじゃ、おもしろくない！」というようにサークルを、意識的に自分たちで、創り変えることが始まる。しかし、複雑化する「今」サークルの運動が、それに対応し切れなくなると、サークルの人間はついに、分断していきそうになる。「あいつは、ああ考へているんだから……」式のやさしさは、サークルの人間一人一人に、淋しさを、刻みつけてしまふ。

個のもっている質は、確かさと不確かさの中で微妙に揺れ、具体の中へはいり込んでくるとき、はじめて形を現わし、さらにそこから様々な「鏡」に照らされていく。たゞ、質とその意味が明らかになり、具体に対して動かしがけられるスケールを持つことができないようになる。けれどもそこまでの至る長い道のりを、全部、個の人間の中でたどり、やがて完結させてしまふことは、ものすごく大変で、そこで行きつかないかも知れない。具体的にあることを見定めようとするのが少しづつ現実の中で摩滅され、自立への回路は閉ざされたまま、激進退縮してしまふばかりか、人間そのものの足場をも消えつせさせる危きをも含んでいる。

しかし、私達は、個が個であることの危きを、個の思いを、自らの内に、もともと蓄積させてきた！ そうしていつかにも現実に、都市の有様は、積み木のようなビルで空間をうめつくし繁栄を誇り、尽きることのないきらびやかさの中で、終末音を静かに響かせている。このまま私達は目に見えない、退縮を前に、たまたま生長えよう、時を費やすだけの生しか持ち得ないのだろうか。いや、私達の生の饑餓、心の饑餓が、今や、その姿を地上に現わさんと、肉体の中で突破口をまさぐっている。そしてその展開への経路を私たちはどのように持てはいいのだろうか。

学生であること……を見つめ直そうとして、いつの間にか闘争につつまれていった。その中でどうしてやるかと、生身の人間が分離していく……事を通そうとする、人間がスタスタに切り裂かれ、本心に大事なものを感じよう……何かに変な具合になってきた。人間の……で始まったはずのものが、人間をボロボロ落っことし、踏みつけていく。でもやらないでいはいいことでもない。

一つは、私自身の質の問題があった。愛に身を委縮させたまま、それを突進させるような形で動かし、つり巾の小ささがよく気になっていった。身をほぐしたい、感性をデッカクもちたい、スケールが欲しい。そんな時、女の人のポートレート……すこいのた。生きることにどうにかつつかっていき真面目さ、確かさ。物事をキチッとやっつけて、具体的な関係の中

レポート

この写真を目の前にして感じた事は、撮った本人のことか女の子がどうしたということじゃなく、両者の間にある関係なんです。女の子の視線、表情、りんごを持っている手にこめられた力、それら一つ一つのこまやかな、微妙なところまで触れ、確かに見ている。距離なんて全くなく、本当に触れているところが私に大きく感じさせてくる点なんです。わかるってことじゃなくて、「感じる！」ってことが大切なんだと思うんです。どうでもいいや！

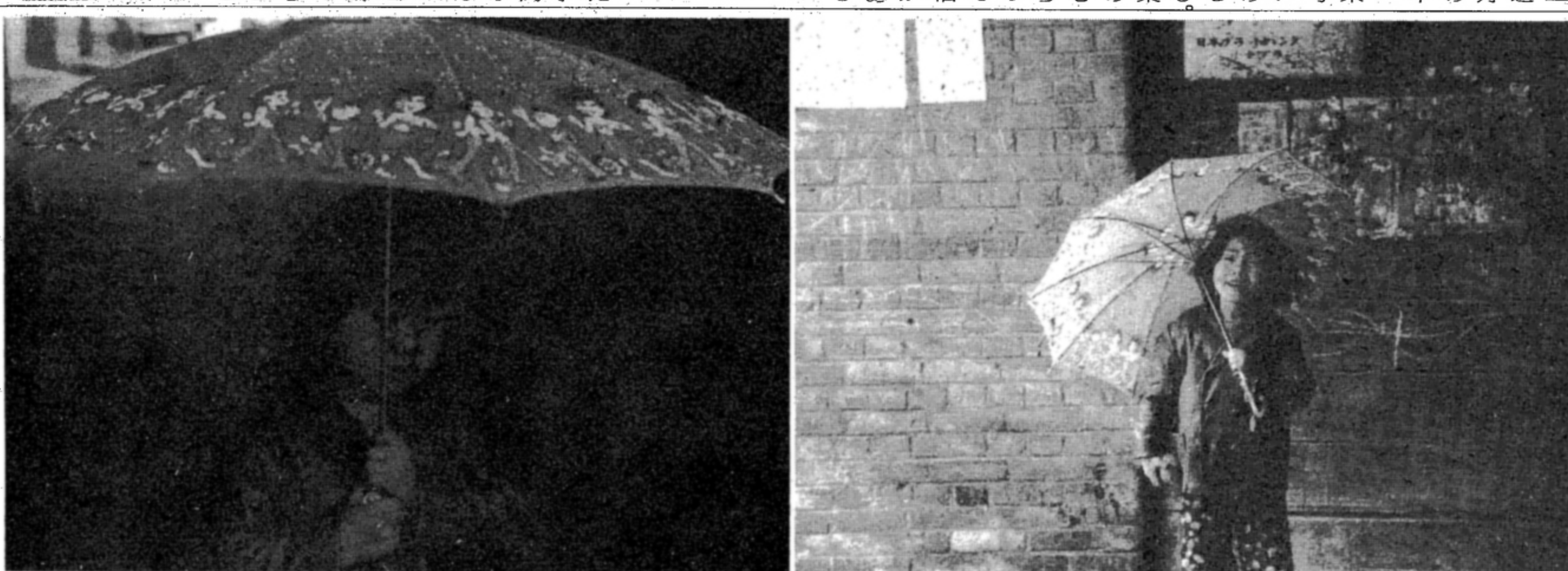
……にかなる！

なんていって、のんのんと生活してしまつて、私の中から目の前から次から次へと気づかずにスー

レポート

ポートを交えて紹介します。

全国合宿



で本当にキチンとやっつけていく。彼女にも一冊手渡した……ってわかってくる。

ものぐさな私は、ショックだった。でも突っつけられてしまった。世の中の不確かさの中で嘆くんじゃないで、本当に自分の手でたしかめつくりあげていく、そこに確かさがあふ、それしかない。

とみえなくなつてしまつて自分自身の事を振り返つてみても何もなくなつてしまつてわからなくなつてしまつて。だからこそ自分の体で感じたこと、触れてきたこと、複雑な感情、意識の渦のようなもの一つ一つの微妙にこまかいところまで確かに自分の中にもつていくことが大切で、子供みたいに絶えず、何なのか、どうい意味なのか、さささな問いかけを、自力に対して、回りに対して行つ、この行為の確かさを、忘れたくない。

原稿募集！

サークルで新対をやつていてこんなことに出会ったとか地区での活動は今こつやろうとしていたとか発行物・写真の紹介などの原稿を募集します。活動を通じて、生にぶつかることから今後、会報をつくつていきたいと考へています。

ワンワンマークのこの店で…
買ってヨカッタ。

中味の濃さ！
こう思われたい！と…
つねにねがっています。

*ご安心ください好評ダブル保証です。カメラ長期5カ年保証+1カ年盗難落火火災保険付 (AIU 国内)

カメラのドイ

写真の学割

“シルバー会員”

募集中！

東京都千代田区神田小川町3丁目28番9号
〒101 (三東ビル1階)
カメラのドイ お茶の水店
TEL. (291) 1 4 7 0

地区

合宿で、写真をかくぐる中で私たちは、体で、それを受け、強く心を打たれた思いがした。その感動は単に写真の見方ということにとどまるものではない。写真にのみ返す回路では決してなく、私たちをとりまく世界との関係のすべてに及ぶまで強く、幅のもてるものではなかつたろうか。具体的に、私たちの写真、サークル地区、との関係は、ここからの出発であらうと考える。幾寅の少年中山岩太の空間を、さらにさらに私たちの日常へと具体的に定着させてしまつてはいいか。

關東

関東

二月に関東二年会をもった。K宅に十数人集まり、これからやることをいろんなことを話すなかから見出そうとしたのだが、ワイワイやってるうちにバックにビートルズの曲が流れてきた。「ワッ、これ大好き」とか、「いいな」とか言っているうちに、みんな何かしらいろんな音楽を聞いているようで、「それじゃ、レコードコンサートやるか」ということになったのだ。

各自、自分の気に入ってる、好きなレコードを持ちより、立教の通称「山小屋」でコンサートは始まった。イエス・ピンクフロイドから藤圭子・森進一まで。それぞれ

が「心臓にわるい」といってきたり、「割り切り屋さん」と言われたり、「涙が出すぎて」とか、いろいろなことができて、いろいろな事がわかって、何でも言いあへる空間ができたのである。さて、四月になって新入生が入ってきたり、もっとたくさんサークルが加わってくるけど、関東二年会がつくり出し得た空間・関係をもっと広範囲に幅広く共有したくて、もっといろんな人と話したくて、関東地区の中でも、新入生を交えて、まず初めは『映画会をやろうよ』ということになった。写真、シャシンでギチギチにやるんじゃないくて、こちらのフレの幅は広いんで、たまたま映画であって、それは絵でも音楽でも本で

もいいのだ。こういう空気の中に新しい人間をどんどん入れてゆきたいし、入ってくるいろんな人間を大事に入ってきて、それゆえ写真にもまた幅広くふれてゆくことができるのだ。

この映画会のとぎ、今まで撮ってきた写真を持ち込んで、「どうだ、どうだ、いいだろう」と他の人間を刺激してやろう。また、映画見たあと、その感想とか、写真部に入った動機とか、自分のこととか、いろんなことを楽しく話そうではないか。だから、いっぱい、いっぱいサークルも人も集ったほうが何かできそうで、おもしろいのだ。さあ、いっしょにやろうぜ。

女子大の動き

今、何かをしたい！

何とがしたい！
デモ・上何か燃焼しきれない
ジョウタイ。
個々がバラバラになつて内に籠
つていつてしまふ。サークルにお
いても、個々のそんなモンタイを
はらめないで、ボロボロとこぼし
ていつてしまふ。
ニンゲンが、淋しく独りぼっち
になつていつてしまふ。
「そんなのつまらない」
「もっとおもしろい、何かをや
りたいんだ！」
「仲間が欲しいんだ！ 一緒に
やつていける仲間が！」
こんな叫びの中から、今我々は
女子大グループを起そうとして
いる。女子大生、短大生というワ
クを、とっぱらい、自分をさらけ
出し、個々の話を、話としておく

ではなく、問題として浮上させ
 お互いに何処かに接点を見出し
 共に考え、共にやっていくとい
 う空間を作り出そうとしているの
 である。その空間は、あくまでも自
 由に話が出せる空間であるとい
 うことは言うまでもないが。
 そこでまず、4月8日に第一回
 女子大集会を、もち我々の仲間づ
 くりのきっかけとした。この中

で新人生対策についても、個々が
どのようなことをしたいか出して
いったり、各々のサークルでは、
どんなことをしようとするのか、
ぶつつけていきたい。これを土台と
して、他の女子大にも、輪をもっ
ともとと上げ、さらに女子大とい
うところにとどまらず、我々のヨ
クボウを、ネンジョウさせる場を
創っていきたいと思う。

北海道

言葉といつ、そんな自分の内の
観念でわかるようなものとはちが
うんだ！ そんな事で世の中がわか
れば、農民とか労働者とか僕の父
母とか、そんな奴なんてものはど
うなんだ！ 今、思い出した事だが
俺と同級生で、自分の生き方みた
いなものを観念で頭の内ではしか
そんなものがわからぬ奴をなぐり
たくなった。もう一つ、世の中
がいやになったかと言って、その
内にどっぴりつかって何もしない
奴を思い出し、頭に来ている。俺
はいわれても、そんな所からや
らなければ出口が見つからないの
だ！

写真を見ているうちに熱くなっ
たかたまりみいたなものをそんな
所にむけたくなって来た。

東北

クラシ内の一人一人との交流と
いうか何を考えているのか、通じ
合へてく足りなかつた。サーク
ルのつなぎはただしよ。ちうち顔
を合わねばならぬが、とは
ん飛び込む、とは身を動かさず
腰を庄してゆゑ、こののはまた私
にはちゝわかつていない。限界を
伸ばす、といふが片づゑ、見てゐ
ると、こののが宿宿にゐる前の私
氣持ちもあつたが、さういふ作
業、こののは、いづつかやうとい
う感じではなにもない。人
からやらせられた、たのたの

写真とガク
 正確に
 4日
 (宮城)み
 例
 山平
 新津
 金
 中甸

じわと追ってくるものを感じた。
 これから、写真を撮る場合にも、
 こちらの向い方、受けいれる幅の
 広さを持たなくちゃいけないと
 思う。幅の広さというのは、映画
 本、とにかくあらゆる方面から吸
 収して、その吸収を自分のものに
 していくみたいなものも必要とな
 ってくる感じがする。

西垣、名取の下北だったり、袖崎の女の子また中山岩太とか百年史の写真なんかみてて、こちら側がぶつかっていく、スケールの差がさかたったり、いろんな風に感じて受けとめていく心だったり、たまたま受けとめるだけでなく、自分にとってどうなのか、ぶつかって感じますごくくまで、リアル

に感ずることができた。百年史を
みてたとき、自分がかぶっている
「一衣」をはきとつてもうに自分を
おつけていかなければどうしやう
もない。撮るといふことは、単に
写真を作ることやないんだ。頭で
考えることじゃなく体で感じ、一
ノツを確かめていくことだ。こ
ういうふうに言っていいいのかわか
らないけれど、自分自身の存在を
確かにしていくこと、体全体でぶ
かっていくことなんだ。

九州

- ・新井が各サクル 各地でやる
- ・株口下地アリ
- ・参入、古くは、焼酎、人、好きで人々が一掃にやっていた様に、
- ・下宿町、旅に出よう
- ・野郎どもで勝負 男同士のやりとり 節度、下宿 人間関係
- ・ある一皿が 写真か、生きることか、!!
- ・石の中に 浸透させる
- ・何故人間が滅びていくか?
- ・重が重なり合っていくか?
- ・自分たちの日常活動の展開
- ・どこまでつまみ合っていくか? 一合いか、はっぴ
- ・サクル、男を立たせる
- ⇒ 人/人/活動

[illegible]

点 在 中 心 に、人 と 写 真 の 質 で
 満 ち づ け ら れ て い け ば ！
 一 事 北 一
 の ハ ず、北 路 道 向 け 写 真 を 対 合 せ
 れ ば、い ち 写 真 を 前 に 置 け ば、
 高 橋 君 が オ ー バ イ ン 白 白 に 来 て
 と 言 っ た。→ 来 北 通 信 を 入 れ、
 路 と 一 緒 に 他 サ ル け に
 一 事 北 一

会 報

北展示会 ← 山形、仙台、駒、
から、写真を持ち帰る。
下北へ撮影
戸井と写真を持ち合い、いっしょに
話をし、フジエに会い、
映画と交渉して映画会を設け、
それから、カールと出かける。
↓ ↓
の関係を整理し、上へ行く

と言いたい ⇨ サーバルの質を
 やろう ⇨ 大切に
 福エインの新入生勧誘 ⇨ 筋肉新入生
 高校の時の友達は いなくなっている
 なのに、高校の連中に 断崖を批判する
 サーバルの側方を一様に否定する
 (現像、パチエック、写真家とりに行く
 ヒロエ工はもっとライバル意識を失う
 2校20) עלי 上げている
 サーバルをやろうとしている青木くんに

足元ハツ、足ふみ、会報もあて
ムにいく

出て来[↑]て[↓]から何かをやる。
サカバ提 WZU ← 全体F16
7-7ma=ヒエ
タマにP
写[↑]る[↓]子 ← マイト、段々
動出す、徐々に
夏 休 み

新聞の力で出入自由のいのちをたてよう
サークルの誰でも来る
写真の開放
一歩先をよろこび 出会ひの中を探
自分達の写真
「財力」
足ぶみ
言をきいてい
合報
お天アルファ
写真に眼をすす
言をきいてい
(自分のサークル)
お天アルファ

→来た人間から自分
持ていくような

くつろいだ感じ。 ~~着~~自分が生

—

こういった空間から、今までの生活が
変える。人間と人間の触れ合い。
新対を立てたい

多々、1人1つのサークルを立てることに向けて。¹⁰
 横の座席をとりう
 どん欲に人と融れ合おう
 徹底的につき合いきろう。

北海道会報：『北斗七星』
 動きのうず（北海道には絶対文豪）

4月中旬 新入生が

10月 10日

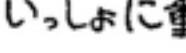
体の動き

- ・写真集をいっしょに見よう (高橋章也)
- ・映画をみたり
- ・本を貸したり読もう
- ・映画をみたり

暗室
暗写

キアラバン例会

西
又月上旬
中旬
新入生が氣に合ふことを知る。
新入生に屋敷書、野方理やフ、断頭、
サークルに入らなくてはならぬといふこと。
いはい人を集めること、集めた人は大事にする。
人間と人間との交わり。あらにふくはない。
おどろきサークルし、知つていふことはいふこと。
サークルの人間といふこと。
映画會のころに話してきつう。ヤマトの案内が
下旬
映画をみて、自由にいふことと話す。
學業を待つがむ。
サークルにも、おなじ生活の教師しえう。
學業をいふこととふくはる。
友がたにサークル、人間に映画會のころとふくはる。


 いっしょに動こう
 写真をいっしょに撮ること
 質を
 5月下旬
 写真をがっけ合う
 たくさん

關西

交流会

関西

新年の月で出入自由のいのちのいたでできる空間を作る

サークルの誰で来る

写真の開放

一歩かやろよ! 出会いの中で確かめる

関大 自主大 立大 京大 高

自由連の写真
「関大局」
足ぶみ
ふしかり
会報

・ 婦人グループなど必
・ 写真に限らず、仲間
・ 言をまってるこ
(自由サークル毎打診書集)
・ 他サークルにも、行き来す
・ 未だ人間から自然と語が
持ていくような空間

くつろいだ感じ。自分から生きている

こいつら空間から、今までの交流会、質を
変える。人間と人間の触れ合い。→の中が
新年対をさせていく

九州

[illegible]

なぜ、
速度優先でなければならないか？
完全自動露出1眼レフ。



○ 六西米

完全自動露出1眼レフのパイオニア

KONICA

AUTOREFLEX



T3

標準価格50mm F1.4付 ¥72,800・50mm F1.7付 ¥63,800・57mm F1.2付 ¥87,800・ボディのみ ¥47,300 ケース ¥3,000、ブラックボディ ¥2,000高 ●〒103東京都中央区日本橋室町3-1小西六写真工業株式会社

10